

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 28 日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520600

研究課題名（和文） 日本におけるスペイン語学習のめやす策定の試み—大学第二外国語を考慮して—

研究課題名（英文） A Project to establish standars for Spanish learners in Japan -In consideration of the second foreign languate at University

研究代表者

大森 洋子 (OMORI HIROKO)

明治学院大学・教養教育センター・教授

研究者番号：60233277

研究成果の概要（和文）：スペイン語履修学生の学習動機、学習スタイル、ストラテジー等の調査を通じ、授業へ用意するもの等について具体的な提案の用意が整った。さらに、学習のめやすについて、より広く利用されるための記述の仕方についてより具体的な提示を考案し、個々のテーマについてその記述方法に基づいて検討してきた。

研究成果の概要（英文）： We have completed a survey of the motivations, learning styles, and strategies of university Spanish learners for the purpose of proposing standards for Spanish language teaching, as well as elaborating materials and activities for the classroom.,

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：言語教育、カリキュラム研究、スペイン語教授法

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本におけるスペイン語教育は、様々な教科書が出版され、おのおのの教員がそれぞれの方法に従った教育が行われてきていた。従って、大学でのカリキュラムを終了しても到達の程度がどのくらいをはかる共通の指針がなかった。

(2) しかしながらスペイン語教員のなかでは、スペイン語教育の改善の必要性を訴える声が大きくなり、関東、関西でスペイン語教育の研究会が始まり月1回程度の勉強会、読書

会が始まり、教育への関心が高まりつつあった。

(3) 韓国語、中国語では主に高等教育における学習についてコミュニケーションを中心とする学習のためのめやすの策定作業がすすんでいた。

(4) 一方、ヨーロッパでは Council of Europe より外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠 (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) が出版さ

れ、主にヨーロッパ言語教育について統一基準が示され、外国語教育の到達目標をより明示的にしようということが外国語教育において大きな課題としてしめされた。

2. 研究の目的

スペイン語について日本人学生の特質を理解しながら、主に第2外国語として学ぶスペイン語教育の一つの基準を示すことを目的とした。

- (1) 第1に学生の興味あるテーマごとにコミュニケーション目的を明示すること、それぞれの文法的構造、学習語彙、文化的理解の必要な項目、語用論的に必要なことをまずは入門、初級者レベルについて明らかにし、授業例とともに提示することを目的とした。
- (2) 初級教材などの調査を通じて、初級レベルに必要とされる語彙、文法項目等についてレベルを明示して提示する。
- (3) 大学入学以前に行われているスペイン語教育（主に高等学校でのスペイン語教育）について調査し、今後の高大連携の可能性を探る。

3. 研究の方法

- (1) 学習者のニーズ分析を行う。日本の大学でスペイン語を学ぶ学生についてスペイン語学習動機、日常における使用の頻度、学習に期待すること、および外国語を学ぶ方法、ストラテジーなどについて調査し、専攻学生、非専攻学生などの特徴をつかむ。
- (2) 高校でのスペイン語教育の動向をつかみ、大学でのスペイン語教育の改善のヒントを得る。高校教員との交流、積極的に高大連携の方法を模索するケースなどについて調査を行った。
- (3) 学習のめやすーについてはそれぞれのテーマごとに、コミュニケーション機能、文法内容、学習語彙、関連する文化的項目について月に1回程度の検討会を行うとともに、スペイン語学研究会などの発表の場を利用し、ワークショップを行い、意見交換を行った。
- (4) スペインから研究者を招聘し、スペインでの教育研究の動向についての研究、意見交換の場を持った。
- (5) 初級教材における語彙、文法項目の提示について調査するためにコーパスを準備した。
- (6) 以上を総括するために、研究論集の出

版を計画した。

4. 研究成果

(1) 日本における40大学、3600名程度の学習者のデータが集まり、それに基づいて分析を行い、報告書にまとめた。

①学習者のコミュニケーションの為の外国語学習志向が観察された。学習者の目的がスペイン語圏に行って実際に現地の人とのコミュニケーションすることなどを好み、また学習の目的も会話ができるようになるという項目が高い値を得た。

②学習スタイル、学習ストラテジー、教室活動等については、従来の外国語教育スタイルをより好んでいる。

③学習者の学習スタイルは教員が実際に教室で受ける印象とは必ずしも一致していない。(例えば、読む作業を行う際にはまず辞書を使わずに、全体の意味を把握するようにつとめる、など)

これらの結果は、今後さらに項目を絞って大学での学習とともにどのように異なっていくかを図っていく。また今後国内の他の言語教育の専門家たちの意見交換も行っていく予定である。

(2) 高等学校におけるスペイン語教育について実態がどのようになっているのかについて集会を行い、お互いの活動について意見交換を行った。高等学校における学習意欲のある学生の学習の継続についてどのようにしたらよいか、また大学におけるスペイン語教員の養成について具体的な方策がないのかについて現状報告が行われた。発表された問題点についてワークショップ等を開いて、より具体的な高大連携の方法について考えていく。

(3) 特に、語用論的項目についてワークショップを行い(2011年9月)、初級レベルにおいて、項目ごとに取り上げる項目は少ないとは言え、挨拶表現、2人称の二つの形、代名詞、ダイクシスなどについては初級からの教育が必要であることを確認し、それぞれ具体的にどのような活動があるかを検討した。

(4) スペイン語教育における語用論的な要素、文化項目の扱い方などについて、さらに日本の教室における問題点を上げ、どのような解決策があるかについて意見交換をおこなうことで、日本における外国語教育の活動についてより活発な交流が行えるようにな

った。

- (5) 日本人学生の発音、アクセント、イントネーションの問題についてもワークショップを行い、実例を用いてどのような問題があるのかを把握し、さらにそれを解決するにはどのような方法があるかについての議論を行った。発音指導について関心を深めた。
- (6) スペイン語教育における様々な問題点については、1つの論文集にまとめて発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 中島さやか、菅原昭江、落合佐枝、大森洋子 「日本の大学における初級スペイン語教育のための教科書評価の枠組み(試案)と『Entre amigos』のケース」カルチャー 明治学院大学教養教育センター紀要 2011年 第5号 査読なし、183-200.
- ② 廣康好美 “La situación de la enseñanza del español como segunda lengua extranjera en Japón” スペイン語文化シリーズ, 上智大学ヨーロッパ研究所 2010年、18号、査読なし、37-46.
- ③ Yuko Morimoto, Hiroko Omori, Hiroimi Yamamura “El concepto de predicado de estadio y la enseñanza de los verbos atributivos –tratamiento alternativo de la oposición *ser y estar*–” 東京スペイン語学研究会 2009年 査読あり スペイン語学研究 24, 51-73.

[学会発表] (計12件)

- ① Pilar. LAGO, 落合佐枝、大森洋子 Cuestionario sobre análisis de necesidades aplicado a los alumnos universitarios japoneses de español -Resultados- 日本イスペインヤ学会 2011年10月9日
- ② Pilar. LAGO, 落合佐枝、大森洋子他 初級レベルにおける語用論 SELE (Seminario de Lingüística española 2011) 2011年8月31日
- ③ Pilar Lago, 落合佐枝、大森洋子 スペイン語教育改善のためのアンケート調

査—報告その2 東京スペイン語研究会 2011年7月23日

- ④ 落合佐枝、MOYANO, Juan Carlos GIDE 新しいスペイン語教育を共に目指して CANELA (日本・スペイン・ラテンアメリカ学会)2011年5月29日
- ⑤ 大森洋子 スペイン語学習における高大連携—今なぜ高大連携か— スペイン語学習における高大連携の試み(シンポジウム) 上智大学 2011年3月5日
- ⑥ Pilar Lago, 落合佐枝、大森洋子 スペイン語教育改善のためのアンケート調査—報告その1 東京スペイン語研究会 2011年2月26日
- ⑦ 大森洋子、西村君代、Mario Carranza El uso del diccionario en el Aula de ELE, Saber valorar los errores, ¿Cómo solucionar la falta de motivación? 日本イスペインヤ学会 スペイン語教育ワークショップ:教師の役割 (Papel de profesores) 関西大学 2010年10月31日
- ⑧ 大森洋子 スペイン語前置詞の指導に関する一考察 SELE (Seminario de Lingüística española 2010) 2010年9月4日
- ⑨ 廣康好美 Encuentro de profesores de ELE: Experiencia en el mundo universitario de Asia 上智大学 2010年3月17日
- ⑩ 大森洋子・落合佐枝 初級教材における語彙提示に関する一考察 —コロケーションの視点から— 東京スペイン語研究会 2010年1月30日
- ⑪ 落合佐枝 初級授業で扱うべき動詞について SELE (Seminario de lingüística española) 2009 2009年8月28日
- ⑫ 大森洋子 教育の観点から考える ser-estar 東京スペイン語研究会 2009年5月23日

[図書] (計2件)

- ① GIDE 編 (Pilar. LAGO, 落合佐枝、大森洋子) Cuestionario sobre Análisis de Necesidades Aplicados a los Alumnos Universitarios Japoneses de Español. 2012
- ② GIDE 編 (編集:落合佐枝、廣康好美、大森洋子) Nuevos enfoques en la

enseñanza del español en Japón;
Concha Moreno y Gide 朝日出版社.
161. 2012

6. 研究組織

(1)研究代表者

大森 洋子 (OMORI HIROKO)
明治学院大学・教養教育センター・教授
研究者番号：60233277

(2)研究分担者

廣康 好美 (HIROYASU YOSHIMI)
上智大学・一般外国語センター・嘱託講師
研究者番号：50249027

落合 佐枝 (OCHIAI SAE)
獨協大学・国際教養学部・非常勤講師
研究者番号：40534558

(3)連携研究者

西村 君代 (NISHIMURA KIMIYO)
上智大学・外国語学部・イスパニア語学
科・准教授
研究者番号：10365679

LAGO Pilar (LAGO PILAR)
獨協大学・国際教養学部・特任教授
研究者番号：90458498

齋藤 華子 (SAITO HANAKO)
清泉女子大学・文学部・スペイン語スペ
イン文学科・准教授
研究者番号：40338249

山村 ひろみ (YAMAMURA HIROMI)
九州大学・大学院言語文化研究院・教授
研究者番号：90281188

YOLDI María (YOLDI MARIA)
上智大学・一般外国語センター・嘱託講師
研究者番号：00407371

木越 勉 (KIGOSHI TSUTOMU)
中京大学・国際教養学部・教授
研究者番号：70510783